

令和 6 年(2024 年)第 1 回

登録標識・路面標示基幹技能者講習(標識)

修了試験問題

修了試験実施日：2024 年 7 月 19 日

修了試験実施場所：富士教育訓練センター

登録基幹技能者講習実施機関：一般社団法人全国道路標識・標示業協会

注意事項

- ① 携帯電話は電源を切りカバンの中に入れてください。
- ② 試験問題は係員の指示があるまで開けないでください。
- ③ 解答用紙に受講番号と氏名を明記してください。
- ④ 正解と思う番号を解答用紙に記入してください。
- ⑤ 試験開始から 30 分が経過するまで及び試験終了 10 分前から終了時刻までは退出することができません。
- ⑥ 質問、体調不良、退室希望等は静かに挙手をしてください。
- ⑦ 試験問題は終了後に持ち帰ることができます。
- ⑧ 試験終了の合図があったら筆記用具を置き係員の指示に従ってください。
- ⑨ 解答は試験終了後約 1 週間後に全標協ホームページに掲載します。
- ⑩ 合格発表は令和 6 年 8 月 30 日に全標協ホームページに掲載します。

一般社団法人全国道路標識・標示業協会

問 1

登録基幹技能者に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① 登録基幹技能者は、国土交通大臣の登録を受けた機関が実施する技能者講習を修了することにより認められる。
- ② 登録基幹技能者は、主任技術者として認められている。
- ③ 登録基幹技能者は、災害対応を含む地域維持の担い手として認められている。
- ④ 登録基幹技能者は、監理技術者として認められている。

問 2

建設キャリアアップシステム(CCUS)に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① 技能者の能力評価は 5 段階で評価され、登録基幹技能者はレベル 4 に位置付けられている。
- ② 技能者の現場における就業履歴や保有資格などを蓄積することにより、処遇の改善や技能の研鑽を図ることを目指す。
- ③ 個々の技能者の能力を評価することが可能となった。
- ④ 能力評価とレベルごとの年収目安の明確化による、賃金水準の相場形成が可能になる。

問3

登録基幹技能者に求められる技能に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① 物事の重要度、緊急度に関わらず、上司に報告の上、指示に従って行動する。
- ② 品質管理に係る基本的な知識を有し、工事工程表に基づき工程の進捗管理を行う。
- ③ 他職種との折衝、調整を行い、工事の円滑化を図るとともに、部下の指導、教育を計画的に行う。
- ④ 現場に適した技術面からの施工方法、作業手順、工夫の提案能力を有する。

問4

OJTに関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① OJTは、教育訓練計画を策定し効率的に行うため集团的に指導する。
- ② OJTは、組織外の実態、考え方などに触れて視野を拡大する機会を提供する。
- ③ OJTは、指導・教育の基本認識として継続的に実施し、一方で仕事のペースは落とさず、OJTの実施が業績低下の言い訳になってはならない。
- ④ OJTとは、上司の仕事そのものであり、片手間にとか暇があるからという考えではなく仕事であるという認識をもつことが大切である。

問 5

働き方改革に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① 監理技術者を専任で置かなければならない建設工事において、代わりに監理技術者補を専任で置くことができる。
- ② 特定の専門工事について、元請負人が専任で置く主任技術者は下請負人が置くべき主任技術者の職務を合わせて行うことができる。
- ③ 建設工事の発注者は、通常必要と認められる期間に比べて著しく短い期間を工期としてはならない。
- ④ 元請負人は、下請代金のうち労務費以外に相当する部分については現金で支払うよう適切な配慮をしなければならない。

問 6

特定元方事業者等の講ずべき措置に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① 安全衛生協議会は、現場所長・統括安全衛生責任者が議長となり、現場の職長と災害防止に関する協議を行う。
- ② 朝礼、毎日の作業打合せ等で、元請業者と下請業者又は下請業者間の連絡及び調整を行う。
- ③ 週 2～3 回程度作業場所を巡視する。
- ④ 元請業者が下請業者の作業員に対し安全衛生教育を行う。

問 7

道路法に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① 道路法は、道路網の整備、管理、構造、保全、維持等を定め、もって交通の発展に寄与し、公共の福祉を増進することを目的としている。
- ② 道路管理者は、道路を常時良好な状態に保つように維持し、修繕し、もって一般交通に支障を及ぼさないように努めなければならない。
- ③ 国土交通大臣は、災害が発生した場合において、都道府県又は市町村からの要請に関わらず、補助国道、都道府県道又は市町村道の道路啓開や災害復旧工事を行うことができる。
- ④ 各高速道路会社の管理する有料道路は、道路整備特別措置法に基づく権限代行制度の一つである。

問 8

道路交通法に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① 公安委員会は、道路における危険を防止するため、交通の規制をすることができる。
- ② 警察署長は、道路の交通に起因する障害を防止するため、交通の規制をすることができる。
- ③ 高速自動車国道においては、交通警察に関する事務を処理する警視以上の警察官(例えば、高速道路交通警察隊長)が交通の規制をすることができる。
- ④ 交通巡視員は、手信号により警察官と同様の交通整理を行うことはできない。

問 9

標識令に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① 平成 12 年、交通バリアフリー法の施行にともなって著名地点を表示する案内標識には地図(略地図を含む)を附置することができることとなった。
- ② 令和 2 年道路法の改正により、特定車両停留施設が道路附属物として設置できることになり、「広域災害応急対策車専用(325 の7)」が新設された。
- ③ 東京オリンピック・パラリンピック開催に伴う「大会関係車両等専用通行帯」を表示する規制標識は、期間を限定して使用するため附則で規定された。
- ④ 令和 5 年、遠隔操作型小型車(自動配送ロボット等)は歩行者と同様の交通ルールが適用されることになった。

問 10

標識令に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① 平成 29 年、国際化に対応するため、「徐行(329)」標識には、必ず「SLOW」を併用表示することになった。
- ② 令和 2 年、「歩行者等横断禁止(332)」標識について、子供も読めるように「横断禁止」の文字を「わたるな」と平仮名を用いることができることになった。
- ③ 令和 5 年、特定小型原動機付自転車(電動キックボード等)の交通方法が決められたため、「自転車専用(325 の2)」標識は「特定小型原動機付自転車・自転車専用(325 の2)」に名称が変更となった。
- ④ 令和 5 年、規制標示「普通自転車歩道通行可(114 の2)」は「特例特定小型原動機付自転車・普通自転車歩道通行可(114 の2)」に名称が変更となった。

問 11

道路の移動円滑化に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① 歩道の有効幅員は、歩行者の交通量の多い道路は 3.5m 以上、その他の道路は 2m 以上と規定されている。
- ② 障害者用駐車施設の数、駐車台数が 200 以下の場合には 20 分の 1 以上設けるものとする。
- ③ 立体横断施設に設けられる通路、傾斜路、階段等には手すりを設けることを規定し、その寸法等を例示している。
- ④ ハンプの構造は、高さは 10cm、平坦部の長さは 2m 以上を標準とする。

【施工管理・環境保全対策・作業計画・工程管理】

問 12

施工管理に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① 施工管理の究極の目的は、品質(より良く)、工期(より早く)、価格(より安く)の三大要素に集約される。
- ② 施工管理の主な内容は、品質管理、原価管理、工程管理の 3 つに分類される。
- ③ 施工管理は請負契約を確実に履行するための手段である。
- ④ 適切に施工管理を行うためには、計画(Plan)、実施(Do)、検討(Check)、処置(Action)の4段階のサイクルを繰り返し実行することが基本となる。

問 13

施工計画に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① 施工計画の流れは、事前調査→実施計画→詳細計画である。
- ② 全体のバランスを考え、作業の過度な集中を避ける。
- ③ 全体工期、全体工費に及ぼす影響の大きい工種を優先して考える。
- ④ 高度な技術が要求される工種や、安全面で危険性の高い工種を重点的に考える。

問 14

作業計画に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① 作業手順書は、登録基幹技能者や安全衛生責任者が中心となって、作業員の意見を聞き、それらを加味して作成することが望ましい。
- ② 作業手順書は、作業上の手戻り、不具合や作業中の事故・労働災害が発生した場合には、速やかに改善し、定期的に見直すことも必要である。
- ③ 作業手順書の作成上の留意点は、設計図面、特記仕様書を優先して作成する。
- ④ 作業手順書は、誰がやっても基準どおりに同じ結果が得られるように作成する。

問 15

工程管理に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① 作業可能日数は、現地の地形、地質、気象等の自然条件を十分に調査し、対象工事の技術的特性を考えて算定する。
- ② 作業可能日数は、1日当たりの平均施工量÷工事量で算出する。
- ③ ネットワーク式工程表は、作業手順、作業の相互関係がわかり、工期に影響を与える作業を重点的に管理することができる。
- ④ 斜線式工程表は、トンネルや舗装工事のように工事区間が線状に長く一定方向に進捗し、比較的工種が多い工事に用いる。

【原価管理】

問 16

原価管理に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① 原価要素は、建設工事では、材料費、経費、外注費の3原価要素に分類するのが一般的である。
- ② 元請負人及び下請負人は見積時から法定福利費を必要経費として適正に確保することが必要である。
- ③ 予算実績管理は、実行予算と実績を比較しながら差異を把握し、目標利益を達成することが困難な場合は直ちに原価低減の活動を実行する。
- ④ 土工事の見積では、土量は縦×横×深さで土の積込み土量を計算するが、土量の変化率は留意する必要がある。

問 17

品質管理に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① 品質を構成する特性を品質特性という。品質特性は具体的な数値で表示されることが望ましく、それを品質特性値という。
- ② 現在の「品質」という用語は、ISO 規格によって「本来備わっている特性の集まりが要求条件を満たす程度」という定義に改められている。
- ③ 施工品質は、施工実態やコスト等を考慮して、無理なく実現できるように元請負人が決める品質である。
- ④ 品質には設計段階で定める設計品質(ねらいの品質)と施工段階で実現する施工品質(出来ばえの品質)がある。

問 18

品質管理に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① JISでは、品質管理を「買い手の要求に合った品質の物又はサービスを経済的に作り出す」と定義している。
- ② 散布図とは、時間の経過による品質特性値の変化を追うものである。
- ③ 特性要因図とは、品質上問題となっている特性(結果)と、それに関係する要因(原因)の因果関係を魚の骨のような形に整理した図である。
- ④ ISO9001 は、製品の品質を担保、保証するシステムを事前に文書化して、それに対して第三者から認証を受け、それを消費者に開示する仕組みである。

問 19

安全管理に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① 公道上での作業においては、作業帯内に通行車両の進入を防止するため、囲い、柵、ガード等の保安設備を設置し、誘導員を配置する。
- ② 高さや深さが2mの場所では、昇降設備がなくても昇り降りができる。
- ③ 高さ3mの高所から物を投げ落とすことは、投げ落としても危険がない設備がない限り、禁止である。
- ④ 脚立の正しい使い方は、
 - イ) 天板に乗らない
 - ロ) 身を乗り出して作業しない
 - ハ) 脚立を背にして降りない
 - ニ) 昇降時に手を空けておくなどがある。

問 20

労働災害における民事損害賠償責任で、事業者が負うべき責任のうち、最も不適切なものはどれか

- ① 不法行為責任
- ② 発注者責任
- ③ 使用者責任
- ④ 債務不履行責任

問 21

標識令に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① 道路標識の設置について、その様式、設置者の区分、設置場所、その他必要な事項は、標識令に定められている。
- ② 道路標識は、道路利用者に対して一定の様式化された方法で、案内、警戒、規制又は指示の情報を提供する。
- ③ 道路標識の設置者は、当該道路の道路管理者のみである。
- ④ 道路や交通状況に応じて、案内、注意喚起、指導用の看板類が設置されているが、これらは道路標識には含まれない。

問 22

案内標識の整備水準に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① 補助幹線道路の交差点流出部に設置される「方面及び距離(106-A)」は、必要に応じ設置される標識である。
- ② 補助幹線道路の市町村境界における「市町村(101)」は、設置すべき標識である。
- ③ 主要幹線道路と幹線道路が交差する交差点手前の「方面及び方向の予告(108-A)」は、設置すべき標識である。
- ④ 著名な公共施設の案内をする「著名地点(114-A)」は、補助幹線道路において設置すべき標識である。

問 23

経路案内標識に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① 交差点の予告案内をする「方面及び方向の予告(108-A)」は、原則として交差点の手前 300m 以内の地点に設置する。
- ② 進行方向の車線数が付加車線を加えて4車線以上の道路の交差点に設置する案内標識は、「方面及び方向(108の2-B)」が望ましい。
- ③ 「方面、方向及び距離(105-A・B・C)」は交差点予告標識が存在しないため、幹線道路等での設置には不向きである。
- ④ 単路部に設置される「方面及び距離(106-A)」は、沿道状況を勘案し、おおむね 3km 程度の間隔で設置することが望ましい。

問 24

地点案内標識に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① 「著名地点(114-A)」で表示するピクトグラムは、原則 JIS 化された標準案内用図記号が用いられる。
- ② 「著名地点(114-B)」に附置された地図には、多言語化や標識との表現の統一を考慮する。
- ③ 地点案内標識の「市町村(101)」の設置位置は、境界線から原則 50m以内とする。
- ④ 英語表記の場合、府県は「Pref.」、駅は「Sta.」と省略できる。

問 25

案内標識の目標地に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① 政令指定市や県庁所在地は主要地に分類される。
- ② 道路の分類で上位路線と下位路線が重複している場合、原則として上位路線の案内を優先させる。
- ③ 案内標識に表示される目標地のうち地域を対象とした地名は、重要地、主要地、一般地に分類される。
- ④ 案内標識に用いる目標地としては、第 1 ランク地名のうち最も近い地名を表示することを原則とする。

問 26

高速道路等に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① 一般道路上の案内標識においても高速道路の路線番号を表示できる。
- ② 「高速道路番号(118 の 3)」の基本は、路線名称の文字高に合わせて、拡大又は縮小して表示し、縦横比は変更しない。
- ③ 高速道路本線に設置される「出口の予告(109)」は、車線数によって設置方式を選定する。
- ④ 高速道路等に設置される「方面及び距離(106-B)」は原則2段以上で表示され、最上段には「遠方の大都市の名称とその中心地までの距離」を表示する。

問 27

警戒標識に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① 「幅員減少(212)」は、車線区分のない道路又は片側 1 車線の道路において急に幅員が狭くなり、走行上危険となる箇所の手前に設置する。
- ② 「踏切あり(207-B)」は、踏切の前に設置するものであるが、警報機がある踏切では設置を省くことができる。
- ③ 「落石のおそれあり(209 の 2)」は、落石防止柵や網等の整備によりその必要がなくなった場合には、早急に撤去するものとする。
- ④ 「その他の危険(215)」は、警戒標識(201~214 の 2)で表示しえないその他の理由により、道路通行者に注意を促す必要があると認められる箇所に設置し、補助標識にて注意内容を表示する。

【規制・警戒標識の設置】

問 28

規制・指示標識の設置に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① 道路の区間を定めて交通規制を行う場合における区間内標識の設置間隔は、駐車関係及び速度規制を除き、原則として交差点ごとに設置する。
- ② 速度規制の区間内標識において、道路標識と道路標示を併せて設置する場合には、できるだけ双方が同一場所となるように設置する。
- ③ 本標識板の拡大又は縮小は、(区域規制標識の背板に表示するものを除き)標準寸法の 2 倍~2/3 倍までとする。
- ④ 補助標識「距離(501)」を附置した駐車関係の道路標識は、路面標示等により交通規制の終点が明らかな場合に限り終点標識を省略することができる。

問 29

規制・指示標識に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① 標示板は本板を上方に、補助板(「終わり(507-C)」を除く)をその下方に取付ける。
- ② 「最高速度(323)」及び「特定の種類の車両の最高速度(323 の 2)」は速度の高いものを先順位(上位)とする。
- ③ 「横断歩道(407-A・B)」や「自転車横断帯(407 の 2)」は、配列順位にかかわらず配置が決まっている。
- ④ 標示板を併設する場合、標示板が表示する方向からみて、同一面において原則として3段までとする。

問 30

規制標識に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① 「指定方向外進行禁止(311-A~F)」は、当該交差点に係る信号機(車両に直面するものに限る。)に設置された場合でも規制効力がある。
- ② 「歩行者等横断禁止(332)」の設置に当たり、区間内標識は、道路の向かい側に設置される「歩行者等横断禁止(332)」とおおむね交互となるように設置する。
- ③ 「最高速度(323)」は、最高速度を指定する区間が連続し、かつ、それぞれの指定区間の最高速度が異なる場合には、それぞれの指定する区間の終点・始点に終点標識及び始点標識を設置する。
- ④ 「転回禁止(313)」を中央分離帯の開口部に設置する場合は、原則として当該開口部の直前に設置する。

問 31

規制標識に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① 「一時停止」標識は、「止まれ」のみ表記のものを「330-A」とし、「止まれ」と「STOP」併記のものを「330-B」としている。
- ② 「一時停止(330-A・B)」の設置方法として、停止線が設けられている場合の設置位置は同一地点又は手前に設置することとするが、やむを得ない場合はこの限りでない。
- ③ 一方通行路において、丁字路等の道路状況から一方通行の終点が明らかで、「車両進入禁止(303)」の視認性が十分にある場合は、「一方通行(326-A・B)」の終点標識を省略できる。
- ④ 「駐車可(403)」は、区間内標識には補助標識「区間内(506)」を附置する。

問 32

指示標識に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① 「横断歩道(407-B)」は、主として保育所、幼稚園、小学校等の付近に設けられる横断歩道及び主として学童、園児の通学、通園のため利用される横断歩道に設置する。
- ② 一方通行路において規制の始まる入口部には、道路形状等により本規制の状況が明らかな場合には、「一方通行(326-A)」の設置を省略することができる。
- ③ 「環状の交差点における右回り通行(327の10)」に設置してある環状部分には、交通流を遮る一時停止や横断歩道を設置しない。
- ④ 「進行方向別通行区分」の道路標識を設置する場合は、原則として「進行方向別通行区分(327の7-B~D)」をオーバーヘッド方式により設置するものとする。

問 33

補助標識に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① 補助標識の1行の文字数は9文字までとし、行数は3行までとする。
- ② ひとつの本標識について2以上の内容を補助標識に表記する場合、1枚に併せて表示するものとする。
- ③ 補助板(補助標識「終わり(507-C)」を除く)の横の長さは、60cmを基準とし、縦の長さは表示内容に応じて決められている。
- ④ 補助標識における時間の表示は24時間制によるものとし、原則として時間単位で行うものとする。

【標識の維持管理】

問 34

道路標識の設計に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① 道路標識の構造設計に用いる荷重は、自重と風荷重の組合せにより設計を行う。
- ② 標識設計における地盤条件としては、ゆるい砂地盤としてN値10程度として算定する。
- ③ 積雪・寒冷地域における道路標識の設計では、標示板表面や裏面への着雪防止などの配慮が必要である。
- ④ 標示板が小さい片持式に用いる基礎の形式は、縦長剛体基礎と組杭基礎が主に用いられている。

問 35

道路標識の構造に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① 標識柱に使用する鋼管の防せい防食法としては、塗装、溶融亜鉛めっき、亜鉛めっき面塗装(二重防食方式)がある。
- ② 標示板に用いる反射材は、封入プリズム型、カプセルプリズム型、広角プリズム型の3種類の再帰性反射材がある。
- ③ 溶融亜鉛めっきのJISが改定され、記号がHDZからHDZTに変更されたが、品質管理は従来 of 付着量を満足すれば規格を満足する。
- ④ 露出柱脚の場合は、支柱と基礎の間に滞水するのを防止するため無収縮モルタル等を施す必要がある。

問 36

道路標識の点検に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① 道路標識の点検は、門型標識においては5年に1回の定期点検(詳細点検)を実施し、その他の型式の標識は必要に応じて詳細点検を実施するように定められている。
- ② 通常点検とは、附属物の損傷の原因となる大きな揺れ、大きな変形及び異常を発見することを目的に、道路の通常巡回を行う際に実施する点検をいう。
- ③ ボルト・ナットのゆるみ脱落対策としては、普通ボルトのゆるみ止めナットの採用や適切な締付管理が必要となる。
- ④ 落下防止対策に用いるワイヤを設置する際は、設計で定められた余長となるように設置を行わなくてはならない。

問 37

小規模附属物の点検に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① 道路標識の点検等技術基準には、直轄国道用の附属物点検要領と地方自治体の門型標識点検要領と小規模附属物点検要領が定められている。
- ② 直轄国道用の点検要領では、部材・施設単位ごとに4段階の評価を行う。
- ③ 門型標識点検要領では、施設単位ごとに4段階の評価を行う。
- ④ 小規模附属物における路側式の点検は、施設単位ごとに10年ごと詳細点検を行わなければならない。

問 38

道路標識の腐食に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① 溶融亜鉛めっきの付着量は、母材の板厚により異なるため、母材の板厚が薄いものは耐用年数が低い。
- ② 孔食は、板厚の薄い部材で発生しやすく、施工時の傷を補修しない場合に発生しやすい。
- ③ 接触腐食は、同種金属の間に水が滞水することが原因で発生している。
- ④ マクロセル腐食は、地際部に砂塵や水が滞水して発生している。

問 39

道路標識の損傷状況の把握と診断に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① 標識板の重ね貼り箇所にブラインドリベットを使用している場合は板替え等の検討が必要である。
- ② 吊下式の標識板は、テーパーピンの設置と落下防止ワイヤによる補強を行う。
- ③ 梁継手部の高力ボルトがゆるんでいた場合は、増締めを行い「合いマーク」を施す。
- ④ バンドによる取付け金具の損傷は、バンド押し曲げ形状が直角に曲げたため亀裂が発生している。

問 40

道路標識の変状と対策に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① 亀裂が発生しやすい箇所は、支柱本体、開口部、リブ溶接部、トラス溶接部である。
- ② 支柱内部に滞水が生じている場合、排水を行うとともにキャップ等損傷がないか確認し補修を行う。
- ③ リブ溶接部における疲労亀裂の対策は、柱材の細長比を 200 以下とすることが有効である。
- ④ アンカーボルトが破断した場合は、あと施工アンカーにより破断したアンカーボルトの取替えが必要となる。

問題は以上です

登録標識・路面標示基幹技能者講習 解答用紙

2024-1標識

受講番号

氏名

【基幹技能者一般知識】

1	2	3	4
4	1	1	1

【建設業法・安衛法】

5	6
4	3

【道路法・道路交通法】

7	8
3	4

/8

【標識令改正】

9	10	11
2	1	2

【施工管理・環境保全対策・作業計画・工程管理】

12	13	14	15
2	1	3	2

/7

【原価管理】

16
1

【品質管理】

17	18
3	2

【安全管理】

19	20
2	2

/5

共通 合計
/20

【案内・警戒標識の設置】

21	22	23	24	25	26	27
3	4	4	3	1	4	2

/7

【規制・指示標識の設置】

28	29	30	31	32	33
2	4	3	1	2	1

【標識の設計・製作】

34	35
4	3

/8

【標識の維持管理】

36	37	38	39	40
1	4	3	3	4

/5

専門 合計
/20